

「実践事例集Vol.14」(2017年4月発行)で  
紹介している事例を中心に抜粋しています。

(公益財団法人 ソニー教育財団)

ソニー幼児教育支援プログラム 幼児教育 保育実践事例サイト  
<http://www.sony-ef.or.jp/sef/preschool/>

実践事例集

<http://www.sony-ef.or.jp/sef/preschool/practice/>

「科学する心を育てる」

～豊かな感性と創造性の芽生えを育む～

うさぎと共に生きる  
～飼育活動から～



学校法人 あおい学園      あおい第一幼稚園

( 前 略 )

年中組の頃(2015.4月～)

園では、4羽のウサギを飼育している。例年、4歳児がウサギの世話を担当し、ウサギ当番が始まる。

4羽のウサギ

□しろろ(♀) □おはな(♂)  
□ちょこあ(♀) □まろん(♂)

<飼育活動のねらい>

- ①興味・関心・愛着を持つ
- ②人間との違いに気づく
- ③共通の話題を持つことで友達同士のかかわりを深め、命の大切さを学ぶ

5月 ウサギ当番スタート

育ちのキーワード: 興味・関心

園生活が落ち着き始める5月。クラスから2名ずつ順番でウサギ当番を始める。



ウンチ、いっぱい  
してるね

<当番の仕事>

- ・小屋の掃除
- ・家庭から野菜くずを持って来てもらい、ご飯をあげる



《当番をした子どもの感想》

- ★ご飯をあげて、食べてくれるのが楽しい
- ★掃除の時、小屋からウサギを出すときに抱っこできるのが、うれしい
- ★ウンチが汚い、臭いにおいがする。
- ★当番をしてると、遊ぶ時間がなくなる。

<考察>

進級当初は、ウサギ当番という役割があることがうれしく、子ども達は意欲的に取り組もうとした。しかし、当番を1度体験すると、世話が楽しいことだけではないことに気づく。『(当番は)1回やったから、もういい』と言う声が聞かれ、ウサギへの興味・関心が継続されたものにならなかった。この時期、園庭で出会う虫や花などの方に子ども達の心は動かされるようだった。

2015.9  
突然の『しろろ』の死

原因は?

毛球症

毛球症とは?

胃や腸の中に毛が詰まってしまう。排便や嘔吐で出すことができず、ウサギの死因で1番多く見られる病気である。

### \* 子どもたちの反応 \*

- ・死んでしまったウサギの側にずっといる子がいる。
- ・『しろろ』に近寄ろうとしない子もいる。
- ・ウサギが死んでしまったことを、他の学年の人や 友達に知らせようとする子がいる。
- ・『昨日まで元気だったのに、なんで死んじゃったの?』『毛を飲み込んだら、死んじゃうの?』と死因を探ろうとする子がいる。
- ・自分たちの世話の仕方に、問題があったと考える子はいない。
- ・死んでしまったウサギに対して、自分たちから何かをしたいという話はない。
- ・ウサギの死から数日後、子ども達から『しろろ』の話が聞かれなくなった。

### < 考察 >

ウサギの死から、子ども達とウサギとの関係がそれほど深まっていなかったことがわかった。4月からウサギと触れ合ったり、世話をしていたが、可愛がるだけでウサギをペットのように扱ってしまったように思う。死から数日後、ウサギの話題が聞かれなくなってしまったが、その原因のひとつとして保育者が子ども達とウサギの死について考える機会を逃してしまったことが考えられる。4歳児と言えども、子ども達と理解し合えるまで話し合うべきであった。子ども達にとって飼育とは何か、ウサギとの関係がなぜ希薄になってしまったのかを改めて考える必要があることに気づかされた。



今までの飼育方法で良かったのかな？  
どうすれば良かったのかな？

### 《その①》

保育者

まずは担当が  
ウサギの生態に  
ついて知ろう!!

すると

暑さ・寒さに弱いことが  
わかった。

そこで

### 【改善案】

暑い夏は日陰へ、  
寒い冬は日なたへと  
自由に移動できる、  
可動式の小屋を設置  
する。

《旧ウサギ小屋》



《新ウサギ小屋》



### 《その②》

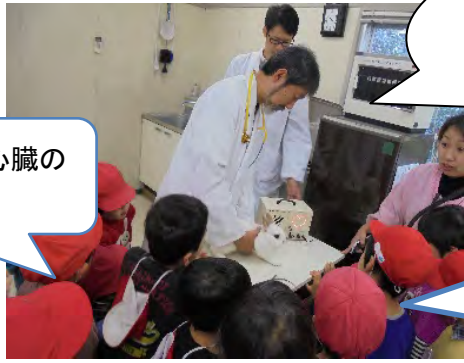
健康状態を把握するため  
には、専門の知識が  
必要なのではないかな？

農工大学の鈴木 馨先生に相談したところ...  
毎月、ウサギの健康診断をしていただけることになった。

12月、健康診断に伺って...

育ちのキーワード: 発見、驚き、疑問

毎月、職員が検診に連れて行っていた。子どもたちにも、その様子を見せたいと思い、相談したところ、鈴木先生の研究室へみんなで伺うことができた。



じゃあ、子どもと大人も心臓の速さが違うのかな？

今日は、ウサギの心臓の音を聴いてみよう!!  
小さい動物ほど、速度が速いんだよ。

幼稚園にいるモルモットはうさぎより小さいから、もっと速いんだね!!

**鈴木先生より...**  
『ウサギの健康状態を知るには、触ることが最も大切なんだよ。触ることで変化に気づくことができるからね。ウサギは寒さに弱いから気温が10℃以下なら、お部屋に入れてあげるんだよ。天気の良い日は外に出してあげてね。でも、暑さにも弱いから30℃になったらお部屋に入れてね』

**<考察>**  
健康診断の方法、心臓の速さなど聞かせてもらったことで、動物の体の構造に興味を持ち、様々な疑問が出てきた。それらの行動や人間との違いを考えることで、ウサギへの関心が高まったことはもちろんだが、ウサギに対する接し方に少しずつ変化が見られるようになったと思う。

**12月 ハプニング発生  
～新しいウサギが仲間入り～**

育ちのキーワード: 喜び、学び

『家庭で飼育が困難になったウサギ(♀)を引き取ってもらえないか』と知り合いの方から話があり、1羽のウサギが仲間入りした。

お人形みたい



名前は『ちょこりぼん』に決定!!

しかし...

かわいいね



噛みついちゃダメだよ

新しいウサギはとても攻撃的で、特に『ちょこあ』に攻撃する。

**<考察>**  
名前を決める際、初めは『キラキラちゃん』など、ただ可愛い名前を考えていたが、自分達の名前がどうやってつけられたのか考えてみると、『こんなふうになってほしい』というご両親の思いがあって、名前がつけられていることがわかった。  
子ども達は『ちょこあ』と仲良くなってほしい、優しく可愛いウサギになってほしいという願いを込めて<ちょこりぼん>と名前をつける。名前をつけたことでウサギに話しかける機会も増え、子ども達との距離がどんどん縮まっていったのは勿論だが、ちょこりぼんと出会ったことで、ウサギによって性格の違いがあることに子ども達は気づくことができた。



ちょこりぼんに引っ掻かれ、ケガをしてしまった「ちょこあ」に薬をつける

## 12月 仲良くなりますように...

育ちのキーワード: 思いやり、工夫

鈴木先生から『4羽を一緒にする時間を、少しずつ増やしていくと良い』とアドバイスをいただき様子を見ながら<ちょこりぼん>をサークル(園庭にあるウサギの遊べるスペース)に入れてみる。『今日のちょこりぼん、おとなしいね!!』『もう、仲良くなれたんじゃない?』と思うと、急に攻撃的になり、『やっぱりだめか...』『オレたちなら、すぐに、仲良くなれるのになあ~』となかなか思い通りに行かない日々が続く。

みんなと遊ぼうね。



わあー!!ちょこりぼんがまた噛みついた。ゲージに戻そう!!

噛んじゃダメだよー

### <考察>

一羽が仲間入りしたことによって、ウサギの中の関係が崩れ、争いが生まれ、あげく怪我をするウサギも出てくるようになり、人間関係ならぬ<動物関係>についても子ども達は目の当たりすることになった。子ども達は4羽のウサギが仲良くなるように、お兄さん・お姉さんになった気持ちでウサギに接し、この可愛いウサギ達を何とかしてあげたいという想いや行動が自然と見受けられるようになる。

## 1月 ちょこりぼん『大好き♡』

育ちのキーワード: 思いやり、共存、創造



Tちゃん: ああー、またちょこりぼんに引っ搔かれちゃった。いたたたた...

保育者: 引っ搔かれて、ちょこりぼんのこと嫌いになったりしないの?

Tちゃん: ううん。全然。

保育者: そんなに痛いのに、どうして?

Tちゃん: だって、かわいいんだもん。引っ搔かれると痛いけどそれよりもっともっと好きなんだもん。

### <考察>

Tちゃんの姿を見て、気づかされたことがあった。それは<ちょこりぼん>と子ども達の関係だ。他の3羽のウサギに対して攻撃的で、度々子ども達を引っ搔いて傷つけてしまうこともある。だが、そんな<ちょこりぼん>を嫌がる子がひとりもない。大概、嫌なことをされると、できるだけかわらないよう距離を置いたりすると思う。特に大人になると、そういった行動に出やすく、つい自分を守ることを優先に考えてしまうが、子ども達はと言うと、ありのままの<ちょこりぼん>を受け入れていることが、Tちゃんの発言からもよくわかる。嫌なことを排除するのではなく、互いが共存できる方法を子ども達は考えていることに気づかされた。



ゲージにひとりであることの多い、ちょこりぼん。淋しくないように廃材を使って、ケーキを作ってあげる姿も...

見て!!ちょこりぼんに  
かわいいのつけちゃった



鈴木先生から『ウサギの健康チェックをするには、ウサギに触れることが大切だ』と教えていただいたが、その言葉の通り、ウサギとの触れ合いが深まるにつれ発見がある。

- ①ウサギに引っかけた→爪がある
- ②すり傷ができる→爪が伸びてる
- ③噛まれた→歯がある
- ④サークルから逃げ出す→ジャンプするのが上手、足が曲がっているから高く跳ぶことができる

など当たり前のことだが、ウサギとの触れ合いを通して新たな学び・そして知識となった。

あれ?これ爪?  
1.8センチもある。



3月 年長組になっても世話をしたい!!

ウサギの飼育や触れ合いを通してウサギに愛着を持ち、ウサギの為に『何かしたい』という気持ちが芽生え始めた3月。例年、年長組になるとモルモットの飼育担当になり、この時期になると5歳児の子ども達から飼育当番の引き継ぎが行われるのであるが、この話をすると子ども達は顔をしかめた。『モルモットもかわいいけど...ウサギちゃんと離れたくない』『ウサギちゃんのが大好きだから、もっと一緒にいたい』『せっかくウサギと仲良くなったから、ウサギの世話をずっとしたい』と子ども達の思いがあった。何度話し合っても子ども達の思いは揺らぐことはなく、熱意を感じ、年長組でも引き続きウサギの飼育をすることにした。



年長組では、『ウサギが幸せに生活するために自分たちができること』を仲間と考え、『言葉を持たないウサギの気持ちを察する』ということのをねらいに飼育をしていきたいと考えた。

#### 4月 ウサギ小屋脱走事件！

育ちのキーワード：・発見・驚き・安堵・好奇心・探究心

みんながお休みのとき、ウサギが穴を掘って小屋から逃げちゃったのよ。まだ穴が空いているんだけど・・・どうしよう？

ヨーロッパ  
穴ウサギって  
いうんだって



子どもたちの反応は？

「小屋の外まで穴のトンネルを繋げるなんて、すごいね～！」

「ウサギはしゃべる使えないのに、爪だけで掘ったなんてすごい!!」

「土を掘ってるのは見たことあったけど、トンネルも掘れるんだね」

「外で迷子にならないで見つかってよかったね」



#### うさぎの気持ちを考えてみよう

育ちのキーワード：想像・思いやり・アイディア・共有

保育者：どうして穴を掘ったのかな？

子：お母さんに会いたくなって出ようとしたんじゃない？

子：トンネル掘って遊んでたら外につながっちゃったのかな？

子：外に遊びに行きたかったのかも

子：穴ウサギだから穴を掘るのが好きなんだね～

保育者：小屋の外に出ても大丈夫なのかな？

子：カラスに食べられたらかわいそうだから、小屋の中にいた方が安全だよ

子：道路に出たら信号もわからないから交通事故になっちゃうし、迷子になるかも

子：掘るのが好きだけど...怪我をしないように穴を掘らないようにした方がいいよ

穴を掘らないようにするには、どうする？

育ちのキーワード：想像・共有・アイデア・工夫



### アイデア その1

網で塞いで、木の板を乗せちゃえばいいんじゃない？

《みんなの意見》

\* 網だけだと怪我しちゃうかもしれないけど、板を乗せたら大丈夫だよ！

やってみよう！

木の板と同じくらいの大きさがいいんじゃない？

#### <考察>

・作戦を考える時、まず子ども達が大事に考えていたのは『ウサギが怪我をしないようにすること』だった。

・すのこを乗せたら、糞が土に落ちて掃除が楽になり、ウサギが土を掘って外に出ることはなく、怪我をすることもなかった。「作戦大成功！」と子ども達は自分たちなりに一生懸命考え、行動に移したことがうまくいき満足げな様子であった。

石を乗せて動かないようにしてすのこをのせればウサギも怪我をしないね！



### アイデア その2

子ども：「穴を埋めればいいじゃない？」

「それいいね」

担任：「何で埋める？」

子ども：「土がいいよ」

子ども：「土だとまた埋められちゃうよ」

子ども：「じゃあ石は？」

「これで安心、大成功」



## 5月 換毛期ってなに??

Tちゃんがウサギの飼育の本を読んでいると、「換毛期」という言葉を見つけた。そこには、ウサギは気温に合わせて毛が冬毛、夏毛に生え変わるということが書いてあった。



これから  
私たちに  
できることは  
なんだろう?

育ちのキーワード: 工夫、試行錯誤、道具を使う相手の気持ちを考える、行動

あれ!! ウサギさんの毛がいっぱい抜けてる!!  
さっきの本に書いてあったことかも!  
みんなにお知らせに行こう!!

〈考察〉

Tちゃんは、小屋の掃除をした際、抜けた毛を見て、換毛期と知識が結びついたようだった。「自分の発見を誰かに伝えたい!」と保育者やクラスの仲間へ自信に満ちた表情で「換毛期の言葉の意味」と「小屋に毛が抜けていた」ことを伝えた。

自分で得た知識や、発見はこれほどにも自信をつけ、子どもの気持ちを喜びでいっぱいさせるのだと感じた。

年中組の頃にしろろくんのお腹に毛が詰まって死んじゃったんだよね...

## しろろくんの死から学んで...

育ちのキーワード: 推測、共感、振り返り、使命感、責任感、

今は毛が生え替わる時だから、抜けやすいんだ

えっ! またお腹に毛が入っちゃう

しろろくんと同じになったらかわいそう...

だから掃除が大切なんだ

年中組の頃に、毛球症で死んでしまったしろろくんを思い返して、今から出来ることをみんなで考えた。

私も見たことがある! 顔ごしごししてるよね

ブラッシングして  
いらぬ毛を  
とってあげよう

年中さんの頃、  
ブラシで毛を  
きれいにしたよ

ぺろぺろ体を舐めて  
るのを見たこと  
あるよ

僕たちが助けて  
あげなきゃ!!

〈考察〉

現状を把握、どのようなことが起こるか予測、推測、仲間の意見に共感しながら話し合いが展開した。同じことを繰り返したくない、可愛いがるだけでなく命を預かっているということを実感してきているのではないかと感じた。

6月 抜け毛をきれいにしよう！

育ちのキーワード：  
自主性、道具を使う、協力、試行錯誤

くしでやってみよう



「だめだ～  
毛が細くてふわふわだから、するする通っちゃうよ」



ブラシでやってみよう



「いらぬ毛だけブラシに集まったよ！」  
「いいかもしれない」  
「でも嫌がっちゃうな・・・」  
「毛が生えてる方から優しくやらないと痛いんじゃない？」  
「ブラシ見ると何されるんだ？って逃げちゃう」  
「怖いのかな・・・」



濡れた手が一番取れる！！



転んでしまって、手を洗ってきた子がうさぎを撫でたら・・・  
「あ！毛が取れた！！」  
「もしかしたら濡れた手でいいこいいこいってしてあげた方が  
気持ちいいんじゃない??」  
「撫でてもらうの大好きなんだね」  
「僕たちも気持ちいいから、これが一番いいやり方だね！！」



<考察>

以前だったら、「かもしれない」「駄目かも」とやる前から方法を減らしていたが、今回は「どれも試してみよう！」と行動に移し、結果を知ることが出来た。

試す中で、子どもたちはやりやすさ、うさぎの反応を見ながら気持ちをくみ取っていた。恐怖心を仰がず気持ちの良い方法を見出している様子から、うさぎへの思いやりの気持ちが感じられた。

5月 30℃を超えたら...

育ちのキーワード: 思いやり、意欲

5月中旬、とても暑い日があった。「暑い」「暑い」と子ども達が体感していた時、ウサギは大丈夫かと心配になり、小屋を見に行く。ウサギ小屋の中にある気温計を見てみると、29℃であった。

するとCちゃんが、年中組の頃に「30℃を超えたら部屋に入れるんだよ」と鈴木先生からと教えていただいたことを思い出した。

他の子ども達も「そうだった...」と思い出し、「ウサギたちって暑さに弱かったよね」「自分達は暑かったらクーラーのかかった涼しいお部屋に入れるけど、ウサギたちは小屋から出られないもんね」という声が聞かれた。そこで子ども達は「気温を測る」「30℃を超えたら、お部屋に置いてあげる」という約束を自分達で決めた。

数日後...

先生!! 30℃になったよ。  
早くお部屋に入れなきゃ!!



ダンボール持ってきたから、  
この中にウサギを入れて  
運ぶよ!!



#### <考察>

鈴木先生に教えていただいたことを思い出してから、子ども達は毎日、ウサギ小屋の気温を気にかけるようになった。30℃を超えていると、慌てた様子で仲間に伝え行き、ウサギを部屋に連れて行く姿を見て、子ども達がよくウサギを観察していることがわかる。また、ひとりで出来ないときは、仲間を呼び、協力しあっている姿が見られた。

初めは温度計の見方が分からなかった子も、友達に教えてもらいながら理解し、数字への興味・関心を持ち、中には、数字を読めるようになったことが楽しくなり、何度もうさぎ小屋に足を運ぶ姿も見られるようになる。子ども達が自発的に考えた約束だからこそ、自主的に行動することが出来たのだと思う。

ウサギの好きな食べ物  
いろいろ知りたい！！

育ちのキーワード: 予想、追求心



「ウサギに一番好きなご飯をあげたいから何が好きなのか知りたい」と、Mちゃんはよく家庭から野菜を持ってきていた。日によって食べ始めるものが違うことに気づき、「ウサギはいろいろなものが好きなんだね」と発見していた。

Sちゃんは、毎朝、登園時に野草を摘んで来てウサギにあげていた。美味しそうに食べている様子が可愛く、愛着心が沸いているようだ。特に好んで食べる野草があった。家庭で保護者と調べてきて「ハルジオンにそっくりだけどヒメジオンっていうんだって」と教えてくれた。ただ野菜を与えるだけでなく、名称を知りたいと興味を持つきっかけとなったのではないかなと思う。



クローバーが大好きなウサギの為に、園内の畑で探していた。草むしりでクローバーが抜かれてしまいそうになった時、「ウサギの大好きなクローバーだから駄目！」と制止するほど大切にしていた。しかし、そのクローバーにそっくりな葉は、「かたばみ」ということを知った。「クローバーじゃなかったんだ」と形の似た植物があることに気づいた。

かたばみとクローバーは、見た目はそっくりだけどウサギはどちらが好きなんだろう？と、気になり試してみると匂いを嗅ぎ、クローバーに口をつけ、かたばみを残していた。ウサギは見た目だけではなく、匂いで判断しているという新たな発見があった。



# うさぎとのふれあいを通して 子どもの心が育まれていくプロセス

「大好き」「かわいい」「大切な存在」 愛着心

どうしたら幸せかな？  
どうしてこういう行動をするのかな？  
とみんなで考える

実際に考えたことを行動に移す

結果どうだったか考える

会話のできない動物の気持ちを自分達が考え  
察する大切さに気づく



くりかえし

## 《まとめ》

ウサギは人間同士のように会話が出来ない相手なので、気持ちを理解する為に子ども達はウサギの行動やしぐさをよく見て察しようとしていたり、「自分たちが体感したことはきっと、ウサギも同じように感じているだろう。自分達が暑いから、ウサギも暑いのかもかもしれない」という自分と重ね、共感し、理解しようとしていた。

動物園でも生き物と触れ合うことができるが、とても単発的でその場でしか学びが得られない。しかし、幼稚園での飼育活動は、日常的に生き物と共に生活をしている為、継続してかかわりを持つことで変化に気づいたり、季節により違う学びを得ることができる。

今回は、2年間続けて飼育をしたことで、より愛着が沸き、繰り返し季節を過ごしたことで前の年の反省や、気づきを振り返り活かすことができたのではないかと思う。

今後も初めに挙げた「大好きなウサギのために」「自分達にできることはなんだろう？」というねらいを心に留め、子ども達とウサギと共生していきたいと思う。

## <参考文献>

町田 修(2014) 新 うさぎの品種大図鑑 誠文堂新光社

執筆者:石塚 百合子、三浦 梢、佐々木 清美、鈴木 乙夏